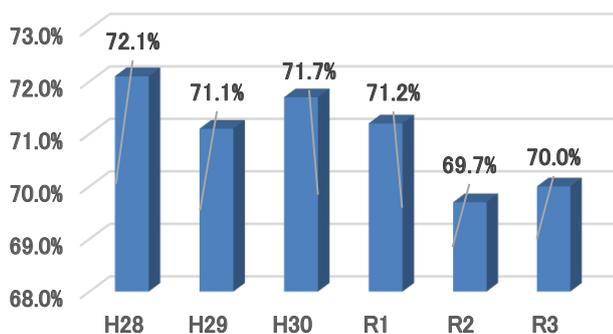


令和3年度

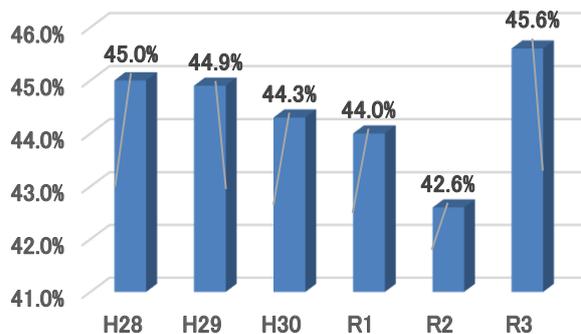
地域運動部活動推進事業

～地域運動部活動推進事業モデル校の実践事例集～

中学校運動部活動加入率



高等学校運動部活動加入率



本県では、令和元年7月に策定した「茨城県部活動の運営方針」の趣旨を踏まえ、学校において持続可能な運動部活動が行われるよう、少子化による部員減少や専門的な指導の充実及び生徒のスポーツニーズに対応した運動部活動に取り組んでまいりました。

現在、令和5年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行に向けては、運営団体や指導者の確保、平日と休日の協力体制など、様々な課題を抱えております。こうした課題の解決に向け、地域間で差が出ないように、運営団体となる総合型地域スポーツクラブや民間のスポーツクラブに協力を要請するとともに、各クラブが、地域のスポーツ指導者や退職教員等を指導者として確保できるよう支援するなど、段階的に地域で部活動に取り組める体制の構築を推進し、休日の地域部活動や合理的で効率的な部活動の全県展開を図っていきたいと考えております。

この事業では、水戸市とつくば市が実践している「地域クラブと連携した部活動」の取組を先進事例としまして、県内中学校の部活動改革を進めてまいりたいと考えております。

各学校におかれましては、本実践事例集を参考にするとともに、休日の部活動の段階的な地域移行の検討を始めるとともに、生徒にとって望ましいスポーツ環境の確保と学校の働き方改革の実現に向けた取組が展開されることを願っております。

P 1、2……休日の部活動環境の構築をとおした学校の働き方改革の推進「水戸市立双葉台中学校」
P 3、4……学校と地域・民間が協働・融合した運動部活動支援体制の構築「つくば市立谷田部東中学校」

地域運動部活動推進事業モデル校の実践

学校名 水戸市立双葉台中学校

研究テーマ 休日の部活動環境の構築をととした学校の働き方改革の推進

1 運動部活動の現状

○部活動の概要

本校は、8つの競技の運動部活動があり、特に、女子の部活動では、県大会で入賞するなど実績がある。また、令和元年度から軟式野球部に部活動指導員を導入、令和2年度からはソフトボール部で合同部活動を活用している。さらに、学校独自に平日2日間を休養日（月と木）としたり、日課表を繰り上げて教員の事務処理時間の確保をしたりするなど、教員の働き方改革を推進している。

○研究テーマに向けたポイント

生徒にとって望ましい休日の部活動環境の構築と教員のやりがいや負担感に応じた指導体制を構築する。併せて、学校の働き方改革を考慮した更なる部活動改革の推進を目指す。

また、保護者・地域の理解を得る地域部活動の在り方を検討し、本校の実践事例を他の地域へも展開することで、令和5年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行を図る。

2 運営上の工夫

○運営団体「オーカスポーツマネジメント」と連携し、8つの運動部活動があるうち、5つの運動部活動において、地域部活動とする。（男子バスケットボール、男子ソフトテニス、男子卓球、剣道、サッカー）オーカスポーツマネジメント（事務局）は、事務局運営及び指導者の派遣、学校と指導者の調整を行う。

○部活動の指導を希望する教師の部活動（サッカー）においては、地域部活動に移行した上で、教員が兼職兼業の許可を得て指導する。

○学校の働き方改革を考慮した部活動改革を推進する。

- ・部活動休止日の導入による授業準備等の時間の確保。
- ・複数顧問制による部活動当番制の導入による勤務の効率化。

3 活動の内容

<活動概要>

○運営団体 NPO 法人オーカスポーツマネジメント

○活動期間 令和3年5月から令和4年2月まで

○指導日等 土日のどちらか週1回程度

指導時間数は上限120時間

○地域部活動へ移行した部

男子バスケットボール、男子ソフトテニス、剣道

男子卓球、サッカー（教員が兼職兼業）

○会費 1,000円/月（本年度は後援会費で負担）

○保険 スポーツ安全保険に加入 800円/人

<保護者・地域への説明>

○R3.4.9 部活動前期代表保護者会

○R3.10.21 PTA 実行委員会及び部活動後期代表保護者会

○R3.11.25/26 1、2年生部活動保護者会



4 研究の成果、課題

<成果>

1 教員にとって

- 顧問教員の希望の有無について選択肢が与えられた。
- 働き方改革が推進された。
 - ・本人のやりがいや負担感に応じた指導体制の構築（時間帯効果など意識の向上）
 - ・「ところてん方式（副顧問は固定せず、休日は順番に指導する）」による全職員による支援体制の構築

2 生徒にとって

- 自分やチームの技能等に応じて専門的な指導を受けられるようになった。
- 指導員と顧問の指導体制の連携により、生徒の平日の部活動参加がより主体的になった。

3 保護者にとって

- 保護者会（4回）の実施により、教員の働き方改革の意義や現状について説明の場を設けられた。

<課題>

1 人材の確保

- ・顧問を希望する教員、大学生、退職者等による人材バンク等の運用

2 保護者の負担軽減

- ・「特殊業務手当」を指導料への運用を可とするなどの予算措置、要保護家庭等への経済的支援体制の確立

3 「枠組み」の整備

- ・練習参加枠や試合参加枠の見直し、文化部参加についても運動部と「一体的な」改革

5 生徒・保護者・教員の声

○生徒の声（アンケート結果から抜粋）

地域部活動に加入した生徒は、「指導内容やプログラム」については、約4分の3が十分満足、やや満足、「自身の技術の上達」については、9割の生徒が、上達した、やや上達した、「部活の楽しさ」については、約4割が楽しくなったと回答しているなど、生徒は地域部活動に対して肯定的にとらえている。

○保護者の声（アンケート結果から抜粋）

加入した生徒の保護者は、「地域部活動の取組み」については、約4分の3が十分満足、やや満足と回答している。また、「月謝が発生すること」については、9割近くが、当然だ、仕方ないと回答しているなど、経済的な負担に理解を示している。

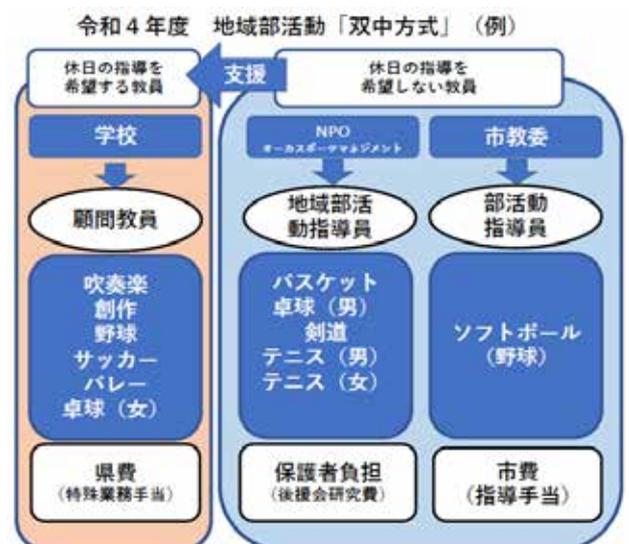
○教員の声（聞き取り）

- ・部活動に係る負担が軽減し、教材研究の時間が十分に確保できた。子育て中なので、休日に家族で過ごせることがありがたい。
- ・初めての部活動指導に期待していたので、やりがいの場が確保されてよかった。

6 今後の取組

持続可能な運営をしていくために、「学校全体で全ての部活動を支える」経済的支援体制を整備した「双中方式」により、次年度以降の運営にあたりたい。以下は、予想される「双中方式」のメリット。

- 教員の負担軽減による教材研究時間確保（授業力向上）
- 部活動指導選択者の「やりがい」の確保
- 部活動指導選択者への組織的支援体制による負担軽減
- 専門的指導者配置による生徒の意欲・競技力等の向上
- 指導分担制による平日活動における生徒の主体性の向上
- 教育活動後援会からの活動費支出による、「学校全体で全ての部活動を支える」経済的支援体制の確立
- 部活動指導選択者の特殊業務手当支給による、保護者の負担軽減（兼職兼業は行わない）



地域運動部活動推進事業モデル校の実践

学校名 つくば市立谷田部東中学校

研究テーマ 学校と地域・民間が協働・融合した運動部活動支援体制の構築

1 運動部活動の現状

○部活動の概要

本校は生徒数約 600 名強の規模で、運動部 11 種目、文化部 4 種目が活動している。顧問は各部複数体制をとっている。種目経験者が顧問の部もあるが、未経験の教員が指導している部もあることや年々高齢の教員が増加していることが課題である。学校の働き方改革を踏まえた部活動改革の取組として、平日活動日は週 3 日に限定し、活動日が減った分は、洞峰地区文化スポーツ推進協会 (DCAA) を立ち上げ、専門の指導者のもと活動を行っている。この取組を開始してからも男子バスケットボール部は県で 3 連覇を達成した。

○研究テーマに向けたポイント

教員の「超過勤務」や顧問が未経験の種目を担当することによる「指導の限界」など、部活動に関する課題は山積みの中で部活動改革は喫緊の課題である。

そこで、本校ではこれまでの学校と地域が協働・融合した部活動改革をさらに進めるとともに、「教員の兼業の活用」や「部活動の複線化」など、発展的な新しい実践検証をとおして、学校の働き方改革を実現するとともに、「子供も教師も置き去りにしない」持続可能な運動部活動運営体制の構築を目指す。

2 運営上の工夫

「洞峰地区文化スポーツ推進協会 (DCAA)」を設立し、部活動とクラブの共存型で文化・スポーツ活動の支援体制を構築するとともに、教員の兼業の活用や地域クラブと協働による地域部活動との複線化を試行する。

- 種目 陸上競技、バレーボール、男子ソフトテニス、女子ソフトテニス、卓球、野球、剣道、サッカー、吹奏楽、男子バスケットボール、女子バスケットボール
- 指導者 つくば FC、つくばユナイテッド Sun GAIA 等地域スポーツの教育資源の他に教員の兼業も活用
- 実施日等 部活動のない日に実施、令和 3 年度は各種目年間 35 回を予定、1 回 2 時間、交流会等は 1 回 4 時間
- 会費 1,250 円/月 (部活動共存型受益者負担を基本、会費の他に国や自治体の補助金も活用)
- 事務局 総合型地域スポーツクラブ「つくば FC」に委託
- 部活動日 平日 (火)、(水)、(金) の週 3 日、土日はいずれか 1 日のみ、朝練は行わない
- その他 新たな地域部活動として、地域の複数の中学校の生徒を対象とした「BCつくば」(バスケットボール)や「つくば TA」(ソフトテニス)等の地域クラブと協働し、「部活動の複線化」に取り組む。

3 活動の内容

1 活動の概要 (2021. 6 月現在)

種目	陸上競技	バレーボール	男子ソフトテニス	卓球	野球
指導者	つくばスポーツ	つくばユナイテッド	筑波大学ソフト	つくば明光	筑波大学大学院
委託先	アカデミー	Sun GAIA	テニス部	卓球クラブ	野球コーチング論研究室
活動場所	グラウンド	体育館	テニスコート	柔剣道場	グラウンド
参加人数	20 人	17 人	17 人	12 人	15 人



種目	サッカー	女子バスケットボール	剣道	吹奏楽	男子バスケットボール	女子ソフトテニス
指導者委託先	つくばFC	GROW	谷田部少年剣友会	茨城県吹奏楽連盟	BCつくば	筑波大学ソフトテニス部
活動場所	グラウンド	二の宮小体育館	柔剣道場	音楽室他	体育館	テニスコート
参加人数	21人	15人	15人	22人	35人	13人



※加入者：運動部員数336名中202名 運動部のDCAAへの加入数179名(水泳部を除く)

2 活動日時 ※平日の日課変更や指導者の都合で時間・場所を変更して行う場合がある。

○月曜日 (15:30~17:30) 陸上競技、バレーボール、男子ソフトテニス、卓球、野球

○木曜日 (16:00~18:00) サッカー、女子バスケットボール、剣道、吹奏楽

○日曜日 (13:00~15:00) 男子バスケットボール、女子ソフトテニス、

※BCつくばやつくばTAなど新たな地域部活動については、学校部活動及びDCAAのない時間に施設を貸与

4 実践研究の成果、課題

【成果】

活動実績：今年度の延べ会員数 7年生83名 8年生86名 9年生33名 合計：202名（6月現在）

今年度の実施回数 年間 35回を予定していたが、コロナの影響で9月、2月は未実施となった影響で各種目27~30回程度の実施となる見込み（2月現在）

○メディアを通じた情報発信や「部活動改革シンポジウム」などにより、本校の取組が部活動改革の必要性について全国的にも社会的なコンセンサスを得る契機となった。

○教員の兼業については、モデル教員を定め、その勤務状況を把握しながら働き方のマネジメントに取り組んできた。その結果を踏まえて、「教員の兼業に関するガイドライン」を策定した。

○教員は、平日の部活動指導日が減ったこと負担軽減につなげることができた。

【課題】

○教員の兼業については、過度な労働負担や勝利至上主義に繋がらないよう、働き方のマネジメントが必要である。

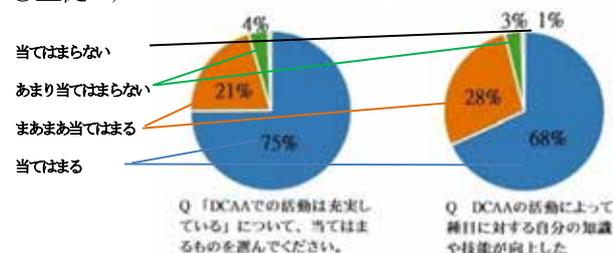
○土日休日に活動する場合の安全対策として今年度はATを配置したが、より人材・財源が必要になる。

○DCAAでの活動日を増やす場合、会員数の増加と会費の値上げの検討をする必要がある。

5 生徒・保護者の声

○生徒の声

DCAAに関するアンケート(加入者179名が回答：R3.12月)



○保護者の声

- ・最初は部活動でお金がかかるって何だろうとは思ったが、専門家に教えてもらえる事はメリットの方が大きいと感じている。
- ・DCAA独自の練習試合などしてほしい。
- ・学校での部活動では難しい基礎や技術の応用を学んで欲しい。
- ・土日の活動時などは災害時など急な対応が心配

6 今後の取組

○部活動の地域移行については、指導者確保、財源確保(活動確保)、安全対策などの課題ははっきりしてきているが、一つの学校ですることには限界があることから、市全体で部活動の活動日を減らし、減った分への対応を既存の団体と連携して市全体で統一した枠組みを創っていく必要がある。

○本校では、学校の働き方改革と持続可能な地域で支える地域部活動の仕組みの推進のため、冬期の学校部活動のシーズンオフ制度を導入する方向で来年度に向けて検討中である。その間のDCAAなどの地域部活動の活動日を増やしたいと考えている。会費の値上げや指導者の調整などが課題となる。